

令和7年度 コミ協ごと地域福祉懇談会 開催結果一覧

5年間の評価については、各基本目標に向けて計画書記載の取組みを実施したかどうかで、各地区の懇談会参加者の皆さんが自己評価された回答を集計しました。  
 A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった

No	コミ協名	目指す姿	R7取り組むこと	開催日・会場	参加人数	R7のふりかえり	実施・未実施	5年間の評価	残っている課題	開催日・会場	参加人数	
1	新津中央	健康で安心安全な明るい地域づくり	1 地域づくりに元気が	●子ども達をからめた地域福祉活動の取組みを検討する ●福祉事業所と地域の交流:コトイロ日和(障がい者就労施設)としても地域交流を図っていく	6/27(金) 10:00~ 新津地域交流センター	12名	・自学ひろば「グリーンカーテン」を通じたつながり・ラジオ体操のふれあい交流・本町2丁目1区と明治安田の清掃活動・新津第一小学校福祉教育・ひんやり広場(三善道絆の会)・各種交流事業(本町1、秋葉1~3合同、三善道、中沢町) ●自学ひろばが子どもと地域の役員との顔の見える関係につながっている ●各町内会での交流活動が活発であった	○		【防災の取組み】各町内の防災訓練はできている⇒その先のしくみづくりを地区全体で考えて行く必要がある  【地域の情報共有の課題】見守り活動等をみんなで行っていくために個人情報保護法を正しく理解する必要がある。  【孤独・孤立の課題】 ・(包括支援センター)家族と同居の方について、見守りの要望が包括によせられる。子どもの関係が希薄な世帯も多い。認知症の疑いで家族同居の人でも相談ある。 ・誇り高く、相談しない高齢者多い⇒「助けて」が言いやすい関係を地域で築くことや、助けられることへのハードルを下げる意識醸成が課題  【地域福祉活動計画全体として】活動計画の実行について地域全体で連動してやっていくしくみが必要。	1/22(木) 13:30~ 新津地域交流センター	11名
			2 地域づくりに安全で安心な	●新津一中との防災講座について、コミ協としても意識して盛り上げる ●セーフティスタッフ活動の継続により子どもと地域住民の顔がつながるようにする ●コミ協から過去につくった避難行動要支援者への支援体制の確認や見直しを自治会へ呼びかける ●171を活用した連絡体制訓練を防災部として提案する			・緊急情報キット配布事業(見守り)・新津第一中と地域合同の防災学習会・自主防災訓練(本町1、本町2-2区、善道町1、秋葉1、田家2)・ゴミ出しの助け合い活動(秋葉3)・除雪のたすけあい活動(善道町1、田家3、秋葉3)・セーフティスタッフの見守り ●各町内の防災の取組みは活発だが課題もあり、町内同士の情報交換の機会がほしい ●一中と合同防災講座により中学生の意見を聞く機会になった	○				
			3 地域づくりに健康で豊かな	●自学ひろばの継続により、子どもと地域の交流を深める			・ラジオ体操のふれあい交流(再掲)・フレイルチェック(各地)地域の茶の間・ふれあいきいきサロン ●ラジオ体操での交流や地域の茶の間・サロンでの活動が高齢者の介護予防につながっている	○				
			4 体制づくりに相談しやすい	●歳末見守り事業を継続、地域の情報共有を図る ●緊急情報キットの配布・更新の取組みをコミ協と自治会・町内会と連携し、継続する ●緊急情報キットや困りごとに関するアンケートをまとめ、今後にかかす(田家2) ●包括支援センターと民生委員の連携で高齢者訪問、自治会とも気軽に連絡が取れる関係づくりを検討する			・地域連携による歳末見守り事業(15町内実施+1町内該当者なし) ●民生委員と町内会が役割分担して見守り活動に取組む姿もあり、実情に合った見守りの展開を軽属していく ●住民に身近な班長が見守りに加わることができるが良い	○				
2	新津西部	地域みんなが家族、支え合い、助け合い、見守り合う町を築こう	1 地域づくりに元気が	●緊急情報キットの情報用紙更新に取組もう ●子どもの居場所づくりの検討を継続する ●生活支援の取組みについても検討する ●茶の間の移動支援を継続する ●福祉施設との協力でサロンの送迎を検討する	6/23(月) 10:00~ コミュニティスペースやまや	18名	・雪の祭り・朝食会交流「おうちにサンタがやってくる」、餅つき大会(南町二区)/新栄町夏祭り、町内大運動会(新栄町)・障がい施設利用者と地域住民との交流(ほっとサポートしんえい・新栄町・新津緑町) ●雪の祭りはじめ小学校総合学習により地域と子どもたちの交流が活発になっている ●福祉施設によるサロン送迎は単に移動の支援ではなく障がい者と地域住民のつながりづくりになっている	○		【子供の居場所】 ・実施したが課題が残ったため、今後も検討協議していく必要がある 【安心安全な地域づくり】 ・平日日中は中学生と高齢者が中心の地域になっている。地域に残る住民と中学生の顔の見える関係づくりは継続する必要がある 【孤立・孤独の課題】 ・県外に子供世代が転出した独居高齢者が多く在住する。8050世帯の相談が多い。いつの間にか空き家になっている世帯も増えている。何かあったからの介入は近況などの情報が乏しく大変になるため、日頃からの見守りや地域とのつながりを意識して地域の側からも作る必要がある ・地域住民と専門機関とのつながりを強化し深めていく取組みが必要となっている。	2/16(月) 13:30~ コミュニティスペースやまや	16名
			2 地域づくりに安全で安心な	●新津一中との防災講座を継続する ●避難行動要支援者の個別の支援計画について自治会での取組みと緊急キットの配布が運動できると良い ●福祉施設を身近な避難先としていざという時に頼りにできるよう、地域と福祉施設が普段からつながりをつくる			・緊急情報キット配布事業(見守り)・自主防災訓練(実施町内会)・避難行動要支援者との交流(山谷町1)・新津第一中と地域合同の防災学習会・ほっとサポートしんえいと新栄町の防災協定検討会 ●町内と施設の防災協定の検討や一中との防災講座など、災害時に助け合うしくみにつながっている ●各町内の防災訓練はマンネリ化が課題	○				
			3 地域づくりに健康で豊かな	●福祉事業所内に留まらず地域と一緒にあったスポーツイベントを検討する ●サロンへの送迎などにより参加しやすい形を工夫する			・フレイル予防講座・地域の茶の間・ふれあいきいきサロン・新栄町・新津緑町支え合い移動支援の継続とふりかえり(ほっとサポートしんえいと連携) ●茶の間やサロンへの参加支援により、高齢者の介護予防につながっている ●フレイル予防講座など、健康を意識した取組みが継続されている	○				
			4 体制づくりに相談しやすい	●社会福祉法人のネットワークなどで、いつでも相談と情報交換ができるつながりを作っておく			・生活支援「ビジネスみゆき」(美幸町)・除雪のたすけあい(新栄町除雪見守り隊)・地域連携による歳末見守り事業(10町内実施)・町内会長と民生委員の常時連携体制構築(南町二区)・福祉事業所の運営協議会 ●福祉施設と地域のつながりが相談し合う関係になってきた ●生活支援の活動が地域住民が町内に相談しやすい意識醸成につながっている	○				

## 令和7年度 コミ協ごと地域福祉懇談会 開催結果一覧

5年間の評価については、各基本目標に向けて計画書記載の取組みを実施したかどうかで、各地区の懇談会参加者の皆さんが自己評価された回答を集計しました。  
 A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった

No	コミ協名	目指す姿	R7取り組むこと	開催日・会場	参加人数	R7のふりかえり	実施・未実施	5年間の評価	残っている課題	開催日・会場	参加人数	
3	荻川	・寝たきり荻川口総をのボ1健康のまぢづくり	1 地域づくりに元気が	●荻川あったかネットを継続する ●福祉事業所と地域の関係づくり ・祭りへの参加、認知症の出前講座、事業所の周知PRなど	6/19(木) 14:00～ 荻川コミセン	19名	・荻川地域福祉推進連絡会議・荻川ちびっ子雪まつり・子ども食堂・子どもの居場所・結小学校福祉教育・新津第二中学校認知症サポーター養成講座・世代間交流観覧会、各町内での納涼祭などの交流の機会 ●多世代交流の機会となる地域事業であるが、担い手が年々減ってきている ●子どもに関する地域の行事や学校事業は交流だけでなく若い世代の参加が多い。次世代の担い手づくりにつなげたい	○		【地域活動への関心を高めること】 ・町内会の活動に参加する意識減少 ・行事は一旦中止すると再開が難しい(参加減)	1/22(木) 10:00～ 荻川コミュニティセンター	19名
			2 地域づくりに安心な	●福祉避難所を住民へ周知する ・福祉施設での避難訓練の実施など行う ●住民一人一人の防災意識を高める取組みを検討する ●防災に関する自治会の情報交換会を検討する			・緊急情報キットの配布と更新(全自治会・町内会)・福祉施設と地域とのつながり ●緊急情報キットの配布と更新が定着し、住民の安心につながっている ●福祉懇談会を通して福祉施設と地域が防災の活動でつながるきっかけとなった	○		【地域の担い手を増やすこと】 ・次世代とのつながり難しくなっている。伝統行事に代わるつながりづくりが必要。 【地域の役員の情報共有】 ・個人情報保護が壁になり、町内会と民生委員の情報共有が難しい。 【免許返納後の高齢者や障がいがある方などが地域行事等へ参加できるようにすること】 ・免許返納後の移動手段がなく、高齢者のみの行事参加が難しくなってきた。		
			3 地域づくりに豊かな	●荻川子ども食堂と川口ほうかご広場との連携を継続する ●セーフティスタッフの活動を継続する ●コミセンを使った活動を検討する ●荻川やすらぎの間(地域の茶の間)をコミ協だよりでPR			・荻川やすらぎの間(藤の木原福祉会の移動支援)・(各地)ふれあいいきいきサロン(※「北潟サロン木守柿」新規開設) ●茶の間やサロンの継続により高齢者の介護予防につながっている ●福祉施設の協力によるサロンへの送迎であるが、人数が増えた場合の対応が課題である	○		【孤独・孤立している方の把握・支援】 ・ひきこもりの方など、施設や支援につながりづらい。施設や支援についての周知が必要 ・障がい者の親の高齢化。50代の障がい者が急に独居になることも。早期に支援につなぐにはどうすべきか。 ・高齢独居者増⇔友愛訪問対象者減。検証が必要か。孤独死は65歳未満の1人暮らし男性が全体の半分。そういう方への見守りの意識も必要。 ・(包括支援センター)8050世帯の問題がある。圏域ケア会議でも発見と見守りや支援が大きな課題という話題だった。 →見守りの網の目を細かくする必要(地域内の連携)がある。		
			4 体制づくりにしやすい	●荻川あったかネット、自治会や民生委員、協力員、老人クラブ等との連携を検討する ●緊急情報キットの配布、情報更新の取組みを継続する(全自治会・町内会) ●住民対象の認知症講演会を開催し、理解を更に広げる ●歳末見守り事業の配布物品を検討する			・おぎかわあったかネット・地域連携による歳末見守り事業(16町内実施)・地域福祉懇談会(6月・2月)・認知症講演会(講師:認知症の人と家族の会 等々力務氏)・除雪の助け合い活動(車場5、中野2、賞路津) ●見守り活動は友愛訪問、歳末見守り、あったかネットと多くの取組みがあるが見守りの輪から漏れている住民が課題 ●民生委員への相談が増えているのは、相談しやすい体制ができてきていると評価できる	○		【福祉教育=助けてと言える意識の醸成が必要】 ・“人に迷惑をかける”ことへの遠慮大きい。→迷惑かけ合うことが普通という意識醸成が課題		
4	満日	こどもからお年寄りまで笑顔が絶えない住みよい満日づくり	1 地域づくりに元気が	●休日親子ふれあい広場 ・旧満日小学校を活用して継続(周知や内容を工夫する) ●子どもの居場所 ・満願寺で子どもの居場所活動を実施する ●ふるさと健康講座の継続 ・周知に工夫し多くの住民に参加してもらえるよう働きかける ●老人クラブ ・老人クラブとコミ協との連携について検討したい	7/5(土) 9:30～ 旧満日小学校	21名	・休日親子ふれあい広場・満日地区世代間交流事業(花植え・さつまいも苗植え)・阿賀満にじいろまつり・どんど焼き・満願寺校 ●地域内への周知に工夫し、参加者が増えてきている事業が多くなってきている ●地域の交流事業は住民の顔の見える関係につながる大切な事業であるため継続していく必要がある	○		【交流】 ・地域の交流が少なくなってきた。隣組など小さな単位での取り組みも大切。 【参加促進】 ・高齢者を誘い出す工夫や声掛け、内容の工夫が必要 【周知】 ・回覧板以外の周知が必要になってくる。満願寺町内会ではLINEの公式アカウントを作り、デジタル回覧を行っている。 ・デジタル化をもっと進めていけるとよい。 【情報共有】 ・本当に困っている人を民生委員と情報共有できるとよい。 【ひきこもり、孤立】 ・ひきこもり多いがどう関わっていくかが課題。	1/17(土) 9:30～ 旧満日小学校	20名
			2 地域づくりに安心な	●交通安全教室 ・高齢者向けに警察の講話を行う ●防災 ・七日町と満願寺合同で避難訓練を実施 ・避難場所となっている旧満日小学校の清掃活動 ・満願寺自治会での個別避難計画作成 ●環境整備 ・癒しの福祉ゾーン周辺の環境整備について要望を出す			・防災訓練(避難所清掃活動)・満日地区環境美化活動・個別避難計画作成(満願寺町内会) ●避難所になる旧満日小学校の清掃活動により課題を確認することができた ●今後は避難所運営委員会の検討が必要となってくるほか、個別避難計画の整備にも取り組む必要がある	○		・コミ協事業に参加できない方が孤立している。隠れた弱者のことを考えていく必要がある。 【緊急情報キット】 ・一人暮らしの方の緊急時の対応が難しいため、緊急情報キットの見直しや更新が必要 【支え合い】 ・独居高齢者の除雪の課題がある		
			3 地域づくりに豊かな	●認知症 ・ひきこもりや認知症予防のため、居場所づくりを検討する ●文化祭 ・地域の団体、満日子ども園、福祉施設等で協力して開催 ・ミニ喫茶を設け、地域の交流の場としていきたい ●施設との交流、連携 ・はさぎの里のイベントは地域の子どもの参加呼びかける ・施設に雇用予定の外国人との自然な交流ができると良い			・満日地区文化祭・満日フォトコンテスト・ふるさと健康講座・地域の茶の間まんまるサロン ●一度実施した健康講座のふり返しを行い、各住民のその後の生活に定着できるように働きかけができると良い ●事業の周知に工夫し、孤立の予防につながるような誘いかけを行っていく必要がある	○		【地域の取り組み】 ・コロナ禍以降取り組みが少なくなり、復活できていない。 ・高齢者が多いということは経験が豊富。経験を活かして若い世代を育てていけるとよい。		
			4 体制づくりにしやすい	●声かけ訪問 ・1か月に1回の訪問を継続する ・民生委員と訪問員の情報共有の場やふり返し会を行う ●買い物送迎支援 ・福祉施設の協力で継続実施。 ・年1回ふり返し会を開催予定			・声かけ訪問(訪問員打ち合わせ会)・買い物送迎支援(ふり返し検討会) ●訪問員の後継者不足や対象世帯についての民生委員や町内会との共有の場を作る必要がある ●買い物送迎支援は継続しているが今以上の利用希望があった場合に対応が困難であるという課題がある	○				

令和7年度 コミ協ごと地域福祉懇談会 開催結果一覧

5年間の評価については、各基本目標に向けて計画書記載の取組みを実施したかどうかで、各地区の懇談会参加者の皆さんが自己評価された回答を集計しました。  
 A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった

No	コミ協名	目指す姿	R7取り組むこと	開催日・会場	参加人数	R7のふりかえり	実施・未実施	5年間の評価	残っている課題	開催日・会場	参加人数	
5	新津東部	出合い・ふれあい・見守り・支え合い	1 明るく元気な地域づくり	●サロン大広間(新町)では二小の児童と夏休みに交流する	6/18(水) 10:00~ 勤労青少年 ホームグループ室	7名	・初夏の新津川遊歩道を歩きましょう・はじめての歴史探訪・多世代交流事業への支援・サロン、茶の間への支援・サロン大広間(児童との交流)・子どもの居場所「あそびにおいでよ」(草水町)・地域交流活動(各町内) ●週末に親子で参加できる行事を企画しても参加が伸びない。地域行事への参加意識が薄れている可能性がある ●孤食を防止する目的の食事会など「食」を一緒に囲む事業は地域の交流になるうえ参加が多いため、継続していく	○		【移動】 ・サロンの送迎など移動の困りごとが多く聞かれる。  【閉じこもり】 ●高齢者の閉じこもり →茶の間やサロン、地域の行事などあっても、人との関わりが苦手な方には参加のハードルが高く閉じこもり  ・閉じこもりの高齢者が参加できるような場の創出 ・誘った上で同行するなどの声かけの工夫を検討する必要がある ・サロンスタッフの受入れスキルアップや周囲の参加者の認知症の学びなどの福祉教育が必要 ●中高年の閉じこもり・ひきこもりの支援についても課題である	1/15(木) 10:00~ 勤労青少年 ホーム	7名
			2 安全で安心な地域づくり	●家族票に緊急連絡先の記入箇所を設けた ●避難行動要支援者の情報について、組長会議の際に地図で確認する取り組みをしている			○					
			3 健康で豊かな地域づくり	・ふれあい健康づくりの集いや地域の茶の間・サロンの継続 ・福祉委員と常任委員の合同研修会の継続			○					
			4 相談しやすい体制づくり	●歳末見守り事業の継続と配布物の検討 ●孤独、孤立課題、見守り活動は多様な方法で検討 ●北上でごみ出しの個人ボラの周知を検討する ●飯柳で生活支援(ゴミ出し支援)がスタート、しくみ化してより良い方法を検討する ●高齢者等の移動の課題は検討継続する			○					
6	阿賀浦	みんなで作ろうー地域の絆ー	1 地域づくり	・阿賀浦にじいろまつりはじめ、各自治会の夏祭りなど既存の活動を継続	6/25(水) 13:30~ 地域学園	14名	・阿賀浦にじいろまつり・夏祭り(各町内)・地域交流活動(各町内) ●各自治会の祭などの行事は地域の大事な交流の機会であるが担い手の高齢化が課題 ●誕生祭など、新たな工夫により子どもの参加がある事業もあり、今後も工夫が必要である。	○		【地域内の情報共有】 ・回覧板を見る人も少なくなっている中で、他の周知の工夫が必要。 ・様々な活動があると思うが、周知等を工夫し、広がっていくとよい。 【健康づくりの取組み】 ・健康への取り組みとして、コミ協で身体を動かすような活動があるとよい。	1/27(火) 13:30~ 地域学園	14名
			2 安全で安心な地域づくり	●緊急情報キットを必要な人に配布すること・更新の声かけを行う ●自治会ごとの見守りの取り組みをすすめるほか、コミ協としての見守り活動を検討する ●避難所運営についての研修会を計画、実施する			○					
			3 健康で豊かな地域づくり	・ソフトバレー大会やフロアカーリング大会など既存の活動を継続する			○					
			4 相談しやすい体制づくり	●緊急情報キット配布や自治会の見守り活動などを通して相談しやすい地域を目指す			○					

## 令和7年度 コミ協ごと地域福祉懇談会 開催結果一覧

5年間の評価については、各基本目標に向けて計画書記載の取組みを実施したかどうかで、各地区の懇談会参加者の皆さんが自己評価された回答を集計しました。  
A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった

No	コミ協名	目指す姿	R7取り組むこと	開催日・会場	参加人数	R7のふりかえり	実施・未実施	5年間の評価	残っている課題	開催日・会場	参加人数	
7	新関	笑顔いっぱい元気いっぱい夢いっぱい	1 地域づくりに元気が	●新たな担い手の育成 ●新聞の未来を考えよう、と集まった20名の若い世代について、地域に参加し続けられるよう企画しやすい活動を工夫する ●60代の方や女性のチカラを取り入れられるように現役員が声かけをしていく ●行事を通して地域人材とつながる…児童クラブの夏休み大学生ボランティア、大関まつりの若手会など	6/24(火) 10:00～ 新関コミセン	12名	・しんせき児童クラブ・ふれあい大運動会・新聞ふれあい祭り・創設20周年記念事業・さいの神(各町内)・地域交流活動(各町内)・新聞ひな・お宝めぐり ●しんせき児童クラブは利用者が増えて喜ばれているがスタッフが高齢化してきている ●コミ協事業への参加は移動手段の課題が大きい	○		【生活支援・移動の課題】 ・免許返納後などの移動の問題が大きい ・高齢者の大雪、除雪、雪下ろしについて、町内ごとに雪の困りごとを受け止める、回って支援するしくみがあるとよい。 【空き家の問題】 ・一人暮らしの方亡き後の空き家の問題。移住してもらえないような取り組みも必要。 【地域の情報発信】 ・情報発信の工夫としてInstagramを開発予定。若い世代への周知。若い世代の福祉への関心を高めることが課題。 【地域行事の工夫が必要である】 ・地域が楽しめる機会、行事、イベントを工夫する。例)食を楽しむことは交流が深まる。 ・小学校の行事とコミ協や自治会のイベントが重ならないように連携を密に取り合う。 【認知症への取組み】 ・認知症についての取組みを2年ほど前にやったが、包括と連携して実施していきたい。 ・世代交代、人員不足、担い手不足が課題。	1/28(水) 10:00～ 新関コミュニティセンター	17名
			2 地域づくりに安全で安心な	●三者合同避難訓練を水害をテーマに実施 ●避難所運営マニュアルの改訂、災害図上訓練についてはその後、実施を検討する ●青色パトロール…子どもと顔の見える関係をつくるため、4月には地域の見守り隊と一緒に下校した ●熊が出たなどの情報を地域に知らせる役目も担うことができている			・三者合同避難訓練・消防訓練・新聞地区防災の日・青色パトロール隊・新聞安心安全見守り隊 ●青色パトロール隊を知らない児童が増えたため周知が必要 ●災害を想定した児童クラブとの訓練をしておく必要がある	○				
			3 地域づくりに健康で豊かな	●男性の参加しやすい活動を盛り上げる ・グランドゴルフなどのスポーツを盛り上げる ●地域の茶の間での健康講話を継続する ●健康講演会の企画 ●昨年度実施内容は参加者に好評、今年度も健康づくりをテーマに住民の関心が高い内容を検討する			・七夕福祉の集い ●健康講演会は計画できなかったが地域の茶の間などでの講話を継続した ●事業へのタクシー送迎を行い、参加することができた人も多かった。地域行事への移動支援が必要である	○				
			4 体制づくりに相談しやすい	●青色パトロールや地域の茶の間活動など、コミ協の活動を発信し、地域住民が気軽に相談しやすい地域づくりをすすめる ●移動の課題に向き合い、バスの経路を検討するなど、地域住民に直接役立つ活動を継続する			・お茶の間サロン(各町内)・歳末見守り事業(小口) ●歳末見守り事業は小口自治会のみが実施、他の町内にも広げていきたい ●移動の課題があるため、バスの経路検討などを継続して実施してきた	○				
8	小合	住みたい小合	1 地域づくりに元気が	●愛さつ運動は年1回だが、日々の声かけも啓発	6/24(火) 14:30～ 小合地区コミセン	14名	・小合東放課後児童クラブ・小合小学校、小合東小学校4年生総合学習(サロン交流含む)・こあいキッズステーション・ハロウィンフェスティバル・クリスマスの集い ●小中学校と地域との交流により、地域とのつながりが強化されている	○		【高齢者の移動の問題】 ・高齢者にとって、移動手段が無いとサロンの参加などから買い物まで困る ・「こめおたすけたい」小戸下町内会では移動の支援を行っている。→PR方法の工夫が必要である →地区全体で盛り上げ、機運を高めて活動者を増やせると良い 【閉じこもりがち・孤立の問題】 ・閉じこもりがちな人は声をかけても出てこない。そういった人をどうするか。 【情報発信・届かせる工夫の必要性】 ・訪問型生活支援(こめおたすけたい・小戸下町内会)の取組みを包括支援センターも知らなかった。 必要な人に情報を届ける工夫が必要か 【防災に関する取組み】 ・来年度は水害へ備える訓練を予定。小学生高学年や中学生にも役割を担ってもらうしつけを行う。 【小中学生と地域の交流】 ・中学生は来年度から部活が地域展開となる。地域とコミセンの活動としてその受け皿となり、居場所を作れるとよい。 ・イベント等では小中学生の参加がまだまだ少ない。コーナー等を設けてスタッフの一員として参加してもらえるとよい。 ・小中学生がコミ協の活動に企画できるしくみづくりをできるとよい。 【情報共有・地域の役員の連携】 ・自治会や町内会と民生委員間で情報共有が難しい場面がある。 ・情報を共有できる事業が展開出来るとよい。	1/28(水) 13:30～ 小合地区コミュニティセンター	21名
			2 地域づくりに安全で安心な	●災害時の連絡網の確認、自治会長との連絡ツールを確立する ●消防団など地域の役員の活動を住民にPRする ●情報発信のためにSNSの開設を行う ●防災訓練は起震車による体験も行う(10/26)			・一斉クリーン作戦・自主防災訓練・訪問型生活支援事業(こめおたすけたい、各町内)・なじらて訪問・歳末見守り事業打ち合わせ、実施・SNSを活用し連絡網の確認 ●防災訓練・訪問型生活支援事業等、活動の担い手が少なく、募集しても増えないことが課題 ●生活支援事業は住民に理解・浸透されるような発信が必要	○				
			3 地域づくりに健康で豊かな	●コミセンサロンの周知と参加案内を工夫する ・児童や生徒と一緒に参加できる形を検討する ・サロンへの送迎もPRする ●サロンのない自治会での取組みを模索する			・花壇花苗植え・小合芸術祭・福祉輪投げ大会・コミセンサロン・地域の茶の間、ふれあいいいききサロン(各町内) ●高齢者が歩いて行ける地域内にサロンがあると良い ●コミセンサロンについてはサロンの無い自治会からの参加が可能になるよう、情報発信と送迎の支援が必要である ●輪投げ大会などのイベントは元気高齢者の活動の場として有効であるため継続していく	○				
			4 体制づくりに相談しやすい	●事業としての見守り訪問活動以外に自治会で取り組みやすい形の日常的な見守りを検討する ・チラシ配布や募金案内など手渡しする機会を活用する等			・「よらねかね小合」の発行・こあいミラビログ・地域福祉懇談会 ●広報誌やチラシなどでの発信は随時行い、周知発信は一定の評価ができる ●LINEなどのSNSを通じて地域住民への地区情報の発信を強化できると良い	○				

令和7年度 コミ協ごと地域福祉懇談会 開催結果一覧

5年間の評価については、各基本目標に向けて計画書記載の取組みを実施したかどうかで、各地区の懇談会参加者の皆さんが自己評価された回答を集計しました。  
 A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった

No	コミ協名	目指す姿	R7取組むこと	開催日・会場	参加人数	R7のふりかえり	実施・未実施	5年間の評価	残っている課題	開催日・会場	参加人数	
9	金津	さわやかに一声かけ我が笑顔土で育む共助の思い	1 地域づくり 明るく元気な地	●子どもの居場所が7月からスタート、地域でも盛り上げる ●現在も自然に子どもたちがコミセンに寄るので、良い雰囲気を持続できるように工夫する	6/29(日) 13:00～ 金津地区コミセン	22名	・こどもの居場所「ワクワク金津広場」・大運動会・金津地区文化祭作品展・クリスマスコンサート・つるし飾り・かなづ親子食堂ワクワク ●参加者や担い手を集める苦労があるが、運動会・文化祭・クリスマスコンサートなどは金津地区の住民が集う重要事業であり、継続の工夫をしていく。 ●こどもの居場所「ワクワク金津広場」については金津地区が先駆けて取り組み、子どもたちにも喜ばれていることから、継続するための協議を行う。	○		【地域行事・地域参加に関して】 ・大運動会は地域が一体となる大切な行事である。継続して取り組んでいくことには様々な課題がある。 【生活支援・除雪支援に関して】 ・独居高齢者や高齢者のみ世帯では除雪のニーズがある。 ・除雪をはじめとする生活支援に対して、利用料を払えない人への支援があるとよい。 ・活動側が料金を安くしすぎると民業圧迫となるので、そうならないようしくみがあるとよい。 【移動支援に関して】 ・地域の茶の間への送迎については依然として課題である。	2/15(日) 13:30～ 金津地区コミュニティセンター	28名
			2 地域づくり 安全で安心な地	●金津小学校を避難所とする3自治会で避難所運営訓練を行う ●各自治会の防災訓練の工夫を継続し、マンネリ化を防ぐ ●防災無線を活用して挨拶と見守りを強化する			・びいす金津防犯見守り・歳末見守り事業打ち合わせ、実施・金津地区民児協 児童見守り・パトロール・防災訓練・小中合同防災訓練・防犯懇談会・自治会・町内会による除雪活動 ●びいす金津防犯見守り活動や児童の見守りパトロールは継続してきたことを評価できる ●各自治会による除雪活動については本当に必要な世帯に活動が届いているか確認が必要である ●防災訓練も実際を想定し実用的な訓練に進化している	○				
			3 地域づくり 健康で豊かな地	●10/5、第61回を数える運動会を開催、地域を超えた参加を呼びかける ●各自治会のサロンは高齢者が笑顔で参加する健康づくりの場、今後も工夫しながら盛り上げていく			・地域の茶の間(コミセン、各自治会・町内会)・「地域の茶の間いっしょ」送迎支援・地域の担い手となる事業の展開(メロディ)・金津小学校4年生 総合学習(地域の茶の間交流)・金津地区敬老会 ●コミセンサロンへのタクシー送迎に関してはコミ協の金銭的負担が大きく、新たな方法を検討する必要がある ●サロンと小学校総合学習での交流については顔の見える関係づくりに良い効果を生んでいる	○				
			4 地域づくり 相談しやすい体	●自治会と民生委員のつながりを深める取組みを継続する ・民協から自治会代議員会への働きかけ ・各自治会内の役員会に民生委員が参加する ・様々な地域行事を通して連携を深める ●地区社協の取組みの発信に努め、見守りの取組みが広がるように働きかけを行う			・自治会町内会と民生・児童委員との連携のしくみづくり・コミ協だより「会報かなづ」の発行・インスタグラムでの情報発信・地域福祉懇談会 ●独居高齢者が増え、家族も県外在住の方が増えているため、地域での見守りを進める必要がある ●町内会と民生委員のつながりを深めるよう、組織内に位置付けるなどの工夫を継続する	○				
10	小須戸	まちセンはえあいの場の絆を深める	1 地域づくり 明るく元気な地	●移動支援について、買い物支援継続と新たな課題検討 ・タクシーが不便になり、高齢者等の通院の課題が出てきている。移動の課題委員会の立ち上げを検討する	6/17(火) 13:30～ 小須戸まちづくりセンター	12名	・移動支援実施、ボランティア懇談会・地域お手伝い隊会議、実施・サツマイモほり・クリスマスお楽しみ会・鯉のぼり、凧、ハロウィン、イルミネーション、薊玉飾りつけ設置 ●移動支援は定着し喜ばれているがコーディネートを行う担い手が不在、コミ協の負担が大きい ●地域お手伝い隊の担い手が高齢化している ●食育親子教室事業は地域交流につながり評価できるため継続していく	○		【組織体制・地域運営の課題】 自治会の再編や事務局機能の不足など、地域運営の基盤が脆弱である。防災対応や困りごとの把握にも限界があり、活動を担う組織体制の整備と予算づけが必要である。 【交通・移動支援の課題】 既存の買い物支援だけでは地域の移動の課題は解決できない。福祉と公共交通を一体的に考えた広域的かつ持続的な移動支援体制の構築が必要である。 【地域活性化・居場所づくり・健康づくり】 子どもから高齢者までが参加できる多様な居場所づくりと交流の機会の拡充が求められる。そこには、子どもの居場所機能の拡充、男性が参加しやすい活動の創出など、世代を超えた地域活性化が必要である。	1/30(金) 13:30～ 小須戸まちづくりセンター	10名
			2 地域づくり 安全で安心な地	●子どもたちがいつでも行ける場所の検討 ・福祉施設などを活用した居場所の提供の可能性も検討する			・歳末見守り事業打ち合わせ、訪問・子どもの居場所サードプレイス・子どもの居場所(だんだん・嶋岡)・下校見守り・小中合同防災訓練 ●サードプレイスへの要望は高いが予算と場所の課題がある ●歳末見守り事業は中学生ボランティア活動としても定着し、福祉教育につながる取組みであり継続していく	○				
			3 地域づくり 健康で豊かな地	●より良い地域の茶の間運営に向けた検討 ・小向の茶の間では第2の茶の間(夜の部)の開催も実施しているほか、運営委員会方式がうまくいっている →茶の間の交流や情報交換の場が欲しい ・茶の間への移動の課題についても検討する			・各茶の間活動・山遊山ハイキング、知学ウォーク 他 各種スポーツ教室・だんだん・嶋岡(モデルハウス)・地域の茶の間(まちセン、各町内)・ほっとカフェ、まちセンマルシェ・ひな・町屋めぐり ●地域の茶の間は高齢者の集う場として重要な活動であり、男性が参加しやすい内容等工夫をしながら継続していく ●高齢者クラブの活動は会員の介護予防としても地域の担い手としても地区にとって重要な活動となっており、今後も継続していく	○				
			4 地域づくり 相談しやすい体	●お手伝い隊の周知方法やチラシの工夫 ・未就園児のいる世帯への情報発信が課題、良い方法を検討する			・コミ協だより、まちセン通信の発行・地域福祉懇談会 ●年3回のコミ協だよりは地域活動の発信のために重要な広報物となっている ●地域包括支援センターや福祉事業所とのつながりをつくる福祉懇談会や地域の茶の間は重要な場となっている	○				

令和7年度 コミ協ごと地域福祉懇談会 開催結果一覧

5年間の評価については、各基本目標に向けて計画書記載の取組みを実施したかどうかで、各地区の懇談会参加者の皆さんが自己評価された回答を集計しました。  
 A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった

No	コミ協名	目指す姿	R7取り組むこと	開催日・会場	参加人数	R7のふりかえり	実施・未実施	5年間の評価	残っている課題	開催日・会場	参加人数
11	山の手	山の手 笑顔あふれる 元気なあいさつ	1 地域づくりに元気が ●ふれあいまつり、子どもの保護者向けにInstagramで発信している(児童の企画委員も25名集まった) ●ふれあいの社でもInstagramを開始、継続する ●地域の茶の間いこてばへの送迎を福祉施設との協定で開始、今後は買い物等生活支援もできるか検討する	6/19(木) 18:00~ 小須戸地区ふれあい会館	15名	・山の手ふれあいまつり・Instagramの活用(山の手ふれあいまつり)・小須戸中学校総合学習(認サボ、SDGsと福祉)・フリースペース山の手 ●テーマを防災としている山の手ふれあいまつりは、子どもたちが参加できるような工夫を継続していく必要がある ●フリースペース山の手活動については始めたばかりのため、継続して実施していく	○		【高齢者の集い】 地区内の福祉への関心や地域での助け合いの意識を高める地域住民の意識醸成が必要である。高齢者が気軽に集える場や、世代を超えた関わりやすい地域参加のきっかけづくりが求められている。 【子どもや福祉教育に関して】 子どもを中心として地域参加を広げる可能性がある一方、福祉教育が授業だけで終わり、実践にうまくつながる継続的な仕組みが不足している。デジタルを活用した周知や、地域の実情を伝える教育の強化が必要である。 【生活支援・移動支援・地域資源の持続性に関して】 移動支援の車両確保が難しくなっている一方で、住民の困りごとは共有されにくく、潜在的なニーズが支援につながらない状況がある。除雪やゴミ出しなど身近な生活支援をご近所単位で助け合える仕組みづくりは理想であり、生活支援を担っている「人知笑会」を持続可能にするためにも、協力員を増やし、地域全体で支え合う体制を整えていくことが重要となっている。	1/29(木) 18:00~ 小須戸地区ふれあい会館	10名
			2 地域づくりに安全で安心な ●小中学校合同防災訓練は11/8(土)に開催を予定、内容については避難所体験などを検討している ●福祉施設もBCPなどで地域とのつながりを模索する ●子どもが活躍できる場や機会を検討する ●防犯ステッカーを福祉事業所の車両に貼るなどの依頼を行う			・歳末見守り事業打ち合わせ、訪問・防災学習会、防犯パトロール・防災訓練(各町内会)・茶の間移動支援(ふれあいの社) ●地域の茶の間の移動支援については、利用希望が増えた場合の対応が課題となっている ●地域と施設や事業所のつながりが強まる取り組みと評価できる	○				
			3 地域づくりに健康で豊かな ・菩提寺山ハイキングや花いっぱい運動など、既存の活動を継続			・敬老会・地域の茶の間「いこてば こいてば ふれあい会館」・ワンコインこいてば酒場・山遊山ハイキング・地域と学校合同美化活動(花いっぱい運動) ●敬老会については参加者が激減、終了することになった ●花いっぱい運動を通して障がい事業所と地域のつながりができている ●ワンコイン酒場により高齢男性の集う場づくりになっている	○				
			4 体制づくりしやすい ●歳末見守り事業…中学生ボランティアの募集を工夫する ・自治会との協力連携は区社協から自治会に向けて説明する ●ほほえみ(障がい事業所)とのつながりは花植え活動や水やり活動の継続で深める ●水やり活動について舟戸クラブでの実施を地域もとりこんでできるよう検討する ●人知笑会(生活支援)の協力ボラが高齢化、コミ協通信で募集する			・地域福祉懇談会・やろうてば助けあい事業、人知笑会・歳末見守り事業 ●人知笑会は担い手が高齢化、担い手不足のため育成や募集が必要 ●除雪や高所剪定作業については高齢者宅の支援を行う町内もあり、地域内の活動を共有・確認することが必要 ●歳末見守り事業は中学生ボランティアの協力体制を今後も継続する	○				